

令和5年度 世田谷美術館友の会総会

5月13日(土)

参加者43名 委任状229名 計272名 (会員数541名)

庄司マサエ代表世話人挨拶、酒井忠康館長ご挨拶に続き、美術館幹部の自己紹介から始まりました。議長選出を経て、令和4年度の事業報告、決算報告、監査報告と令和5年度の事業計画案、予算案の説明を行い、全て拍手をもって承認されました。その後、令和5年度・6年度友の会世話人、監事、顧問と事務局職員が紹介されました。

令和4年度議事では、コロナ禍で参加人数が制限されながらも、多くの事業を開催でき参加者から好評を得られたこと、事業収支もそれぞれバランスがとれたことが報告されました。

一方、令和5年度議事では、今年の総会で要望のあった事業の休日開催に答え、5月21日(日)から「セタ友日曜デッサン」を新たに開催し、実施は多くの方が参加できるように年3回に分けて参加者を募集する旨の説明がありました。

今後も、会員の要望に添った運営を目指しますので、是非ご意見をお寄せください。

(友の会総務部)



友の会主催 解説・鑑賞会

麻生三郎展

三軒茶屋の頃、そしてベン・シャーン

解説:池尻豪介 学芸員

5月13日(土) 参加者50名

山下秀俊

戦後間もない家族写真の中で、麻生三郎は満面の笑みをたたえています。三軒茶屋のアトリエで土門拳が撮影したものです。暗い印象のする油絵からは、想像もできない笑顔でした。戦争の惨禍を越えて描かれた闇のような絵画から浮かび上がってくるのは、家族への思いだそうです。

やがて、安保闘争やベトナム戦争、そして高度成長期の工事の騒音や環境破壊という時代の流れと向き合う中で、重厚な油絵を描いていきます。その画面からは、悲しみや怒りが浮かんでくるようです。それらの油絵と対比するように展示された素描や挿絵の数々は、軽やかであたたかみを感じます。ご本人は、とても純粋で愛に溢れた人物だったのではないのでしょうか。だからこそ、様々な混乱を抱える社会に対して、描くことで向き合ったのだらうと思います。それは、麻生三郎が共鳴しコレクションしたというベン・シャーンにも通じ合うことなのでしょう。

そして、コロナ禍や戦争といった問題を抱えた今においても、社会に立ち向かう力を指し示しているように思えました。もう一度、麻生三郎の絵と向き合い、何が浮かび上がってくるのか感じてみたいくなりました。



友の会主催 解説・鑑賞会

ミュージアム コレクションⅢ

それぞれのふたり 萩原朔美と榎本了壺

解説:矢野進 学芸員

2月12日(日) 参加者33名

田村弥香

最近のコレクション展はなんだか面白い。

今回のコレクション展も、萩原朔美と榎本了壺、そして澁澤龍彦にまで繋がる展示で、まるで点と点が繋がるような…私の興味の範囲が広がりました。

私は雑誌『ピクリハウス』を知らない世代です。スライドに映った雑誌の1ページを見た瞬間「なんて無意味で楽しい! こんな雑誌があったとは…」と軽く衝撃を受けました。出てくるお名前も今では大御所な人達ばかり。矢野進学芸員の熱意あるご説明で、当時の勢いあるキラキラした渋谷PARCO周辺が目につかびました。きっとあの公園通日も歩くだけで楽しかったんだろうな…と、少し羨ましくも思います。

解説・鑑賞会を終えて。

さっそく澁澤龍彦作『高丘親王航海記』を購入しました。いま榎本了壺さんの作品を思い出しながらかく読ませて頂いております。今後も興味の視野が広がるようなコレクション展、そして解説・鑑賞会を期待しています。



友の会主催 解説・鑑賞会

わたしたちは生きている!

セタビの森の動物たち

解説:東谷千恵子 学芸員

3月26日(日) 参加者31名

「カラスの衝撃～セタビの森を歩いてみたら」

松本侑子

“セタビの森の動物たち”とは、砧公園あたりに生息する小動物かと思っただけ、古今東西の想像上の動物、ノアの箱舟から現代美術まで時空を超えた動物画の美術展でした。セタビの収蔵作品1万7千点の中から動物という括りで選んだ約120点を5章にまとめた展示です。

例えば「ねこ」の章は、紹介動画にもなっている《楽師と猫》(オルネオレ・メテリ)などバラエティに富んだ構成で、猫好きにはうれしいコーナー。

目が釘付けになったのは、カラスです。片側全面ガラス窓を通して砧公園の緑を借景にした、この美術館で最も美しい展示室を占拠するのは4羽のカラス。えっ?と近づいてみると、本物よりも迫力ある(!)カラス(鴉)の彫刻(柳原義達、ブロンズ)です。発する黒いオーラと怖いほどの気迫は、まさに衝撃のカラス体験でした。

企画から2年。コロナ禍にめげず子どもたちやボランティアの協力も得て実現したとのこと。まさにセタビらしい大人も子どもも楽しめる展覧会でした。



世田谷美術館・友の会共催 特別講座

ルソーの爆笑・問題

講師：遠藤望 学芸員

3月21日(火) 参加者53名

「ルソーの爆笑・問題」を聴講して
金子喜久雄

3月21日の春分の日に美術館講堂に於いて遠藤望学芸員による「ルソーの爆笑・問題」と題する特別講座がありました。爆笑問題と聞くとつい太田、田中のお笑いコンビが頭をよぎりますが、そちらの話ではなくアンリ・ルソーが書き残した戯曲に関するお話でした。そもそもルソーと聞けば当館所蔵の平面的な子どもの絵を思わせる肖像画やシテ島の風景画が思い出され、浅学非才の身にはルソーが戯曲を書いていたなど全く思いもよらぬことでした。

今回の講座は、遠藤さんの世田谷美術館退職にあたってのラストレクチャーでした。冒頭、酒井忠康館長が「アンリ・ルソーの演劇について日本で一番知っている遠藤さんの講演に期待します」とご挨拶なさいましたが、その期待に違わず、終了時には方言などについての柳瀬尚紀氏や吉田秀和氏のエピソードを交えながら「感動しました。すばらしいお話でした」と激賞されました。

遠藤さんには、ますますのご活躍を祈念するとともに、今後もその豊富な専門知識と経験を友の会の会員にも引き続きご披露くださいますようお願いしてやみません。



油彩講座

講師：早矢仕素子

1月13日(金)～3月3日(金) 全8回 参加者20名

油彩講座に参加して

佐鹿康夫

前半は「静物」、後半はフラメンコ衣装モデルの「人物」で、20人の参加であった。早矢仕素子先生から初心者には油彩道具の使い方やコツを、経験者にはそれぞれの力量に応じてアドバイスをいただいた。時間的には余裕があり、全8回で3～4枚描いた人もいた。

日ごろ水彩画を描いている自分には、油彩は力強さや迫力が表現できる魅力的な画材だが、慣れないこともあって構図・形を決める段階で手間取った。水彩のためにも基本に立ち返って、もっとデッサンを勉強する必要性を痛感した。

小学生のころ市内のスケッチ大会で入選し体育館に張り出された思い出から、退職後の趣味として絵画を始めた。おかげで描くたびに発見があり新鮮で充実した時間を過ごしている。講座でも技量のステップアップだけでなく、参加者どうし作品を見せあうことで良い刺激にもなり、参加者とも交流できた。

コロナ禍で社会のいろんな場面で分断が進行した。友の会事業が活発化し地域コミュニティの再構築に資することを期待したい。



第34回 アート散歩

日本民藝館(本館・西館)～駒場公園

3月16日(木) 参加者14名

アート散歩に参加して

吉川節子

春の日差しの中、駒場東大前駅から程近い日本民藝館で開催中の「生誕100年 柚木沙弥郎展」鑑賞のアート散歩に参加した。

古屋真弓日本民藝館学芸員さんの案内で西館(旧柳宗悦邸)を見学した。建具やしつらい、民芸家具に日本の美を感じたひとときだった。

本展では、今なお意欲的な染色家 柚木氏の作品、のれん、壁掛、着物等が展示されていた。どれもが大胆な形と豊かな色彩で染められ目が釘づけになった。中でも実物大の掌が布一面に染め抜かれている大きな壁掛があった。赤、黄、緑などの色の組み合わせが鮮やか、かつ発想の意外性に感心し若々しさに見入ってしまった。また、古いお面、土偶、器等が数多く配置され、時代、国をこえた造形物と染色布とが不思議な調和をかもしていた。それらのコラボレーションも心ゆくまで楽しむことができた。

その後、皆で駒場公園まで歩き解散。とても充実したアート散歩でした。



第60回 春の美術館めぐり

岡田美術館～ポーラ美術館

4月25日(火) 参加者36名

美術館めぐりに参加して

高杉結子 高田美夏

初めての友の会の美術館めぐり。行き先は箱根の岡田美術館とポーラ美術館。

岡田美術館は開館10周年記念展第1部「若沖と一村 時を越えてつながる」を開催。伊藤若沖のあでやかで緻密な《孔雀鳳凰図》や《花卉雄鶏図》。裏からも彩色を施したとあり驚く。昭和の画家の田中一村も《熱帯魚三種》では鮮やかな3匹の魚の構図が印象的。若沖81歳、最晩年の傑作《三十六歌仙図屏風》の墨絵は、歌人たちがシャボン玉で遊んだり料理をしたりする姿が可笑しく楽しい。

ポーラ美術館では、「部屋の見る夢—ポナールからティルマンズ、現代の作家まで」展と題して、自宅の部屋で過ごす家族との日常や部屋の様子を作家ごとの「部屋」にして見せるという構成。ベルト・モリゾは女性画家として室内と屋外、すなわち家族と社会をつなぐベランダでの家族の時間を描き、社会参加が限られていた当時の女性の境遇を示唆したとのこと。

コロナ禍でステイホームを余儀なくされた日々を過ぎ、久しぶりに快適なバス旅行で美術館めぐりができて、まさしくこの企画のテーマを実感する一日だった。

「岡田美術館開館10周年記念展、次回第2部は、歌麿と北斎だって!」「また行きたいわね!」



アートライブラリー通信 第9回 古書との出会い、 それは一期一会

「図書資料の収集」は、司書の大事な仕事の一つです。

収集対象の資料の中には、絶版等で一般流通していないものもあり、その場合は古書での入手を試みます。インターネットで古書店の在庫を調べてみるのが早いですが、タイミングによっては入手が難しいことも。そこで、古書店や古書市に足を運んだり、古書目録に目を通したりして情報を集めます。

さて、「古書目録」をご存知でしょうか。古書店が発行する最新の商品情報リストのこと。古書好きでなければ目にする機会は少ないかもしれませんが、貴重な資料の掲載もあり、古書を探すためには大切な情報源です。古書目録には、「七夕古書大入札会」や「ぐろりや会」など古書市等の開催に伴い、参加店の出品情報がまとめられているものもあれば、美術専門の古書店である、えびな書店の目録のように専門分野に特化したものもあります。また、一般書籍に限らず、パンフレットや版画、絵巻といった美術資料を取り扱っていることも。

当館では、最近、鉄道会社の古いパンフレットを入手しました。シリーズとして開催している展覧会「美術家たちの沿線物語」の企画に活用するためです。入手した資料が様々な場面で活躍することは嬉しいこと。また、古書は、その時に入手しなければ次にいつ出会えるか分かりません。他に買い手が見つかることもあります。だからこそ、入手できたときは喜びもひとしおです。
(世田谷美術館学芸部 司書/須藤美麗)



保管している過去の古書目録の一部(左から『明治古典会 七夕古書大入札会』、『えびな書店古書目録 書架』、『ぐろりや会古書目録』)

世田谷美術館・友の会共催 世田谷美術館さくら祭

4月1日(土)・2日(日)

桜吹雪の中の「さくら祭」になりましたが、4年振りの開催とあって人出も多く、特に初日は好天に恵まれ美術館エントランス前の広場はたくさんの方が行き交いました。

広場には世田谷美術館美術大学卒業生や友の会会員によるフリーマーケット、川場村の物産店など様々なお店が並び、地下の創作室では子どもたちに人気の100円ワークショップが開催されました。2019年の大枝の落下で立ち入り禁止となっていた「くぬぎ広場」は整備が完了し、さくら祭初日にリオープン、晴れやかな雰囲気になりました。不思議な動物(蛙犬)が会場内に現れたり、セタビの森の(マシ)がねり歩いたり初のパフォーマンスもあり盛り上がりしました。

友の会はフリーマーケットの受付を担当し、また友の会のPRや会員の皆さんから集まった物品をフリーマーケットに出店して販売しました。友の会の売上金63,891円は友の会の基金に組み入れました。

物品提供して下さった皆さま、ボランティアをしてくださった皆さま、ご協力ありがとうございました。

(友の会広報部)



みんなのギャラリー 美術との出会い 福原 元



《スクラム》木彫

それは三年前の春、孫との散歩の途中でたまたま目についた世田谷美術館美術大学の募集記事から始まりました。その年の1月末で現役を引退し、さて何を始めようかと思っていたところに今まで全く無縁であった美術という文字が体に沁み込んで来たのです。

運よく入学し、31期生の皆様との素晴らしい出会いがあり、綿密なカリキュラムによる美術全般への実習と講義によって自分にとっては新しいジャンルへの扉が開きました。

卒業後は同時にコロナ禍の始まりでもありました。楽しみにしていたステップアップ講座は休講となりましたが、有志によるSNSでの自由作品の投稿とお互いの感想を言いあう環境が構築されました。何の絵具も持たない私は孫の色鉛筆を借りて自己流で描き始めたのですが、それが私にとっての創作活動の始まりになったのです。以来、印象に残った場所の風景画やスポーツシーン、身近な花々等々約200枚の色鉛筆画を描き、更に木彫へと進み、最近では大好きなラグビーをモチーフに木彫三昧の日々を送っています。

ご寄付のご報告及びお礼

会の存続と美術館支援のための寄付金が2023年6月末日現在、2021年1月からの累計で1,225,848円となりました。ご寄付及び会員更新をしていただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。

匿名1名(前回以降)

会費と寄付金の郵便口座
口座記号:001303 口座番号:119860
名称:世田谷美術館友の会

美術館・友の会人事異動

4月1日付け異動がありました。
よろしく申し上げます。



美術館総務担当マネージャー
川上聖子



友の会事務局長
星野明美

これからの事業について

- ◎ 水墨画講座 8/23~10/11(水) 全8回
- ◎ 銅版画講座 9/1~10/6(金) 全6回
- ◎ 水彩画講座 10/13(金)、25(水)、27(金) 全3回
- ◎ セタ友日曜デッサン 9/17、10/15、11/5、12/17(日) 全4回
- ◎ 会員作品展 11/15(水)~19(日)
- ◎ アート散歩 予定
- ◎ 秋の美術館巡り 予定
- ◎ 美術講座 予定
- ◎ 解説・鑑賞会 企画展、ミュージアム コレクション展ごとに開催予定

*2023年度の各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆様にチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。

世田谷美術館友の会に入会しませんか!

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「藝術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポーター・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。

お問い合わせは友の会事務局へ

入会案内(リーフレット)や下記ホームページもご覧ください。

Tel. 03-3416-0607
<https://setabi-tomonokai.jp/>

